

10. 19 年金フェスタ/一揆 2018 中央集会アピール

今日、私たちは「国の責任で若い人も高齢者安心できる年金制度を」のスローガンのもと、「年金下げるな、最低保障年金制度つくれ」の声を広げるために日比谷野外音楽堂に集まりました。

安倍自公政権は、憲法に自衛隊を書き込む 9 条改憲を数の力で強行し、日本を戦争する国にしようとしています。軍事費を史上最高の 5 兆 3000 億円に増やす一方で、医療・介護、年金を容赦なく改悪し、高齢者の貧困をさらに広げようとしています。

年金引下げは決して高齢者だけの問題ではありません。働く人の賃金はこの 10 年さがりつづけ、非正規で働く人は全労働者の 4 割を超えています。国民年金の保険料さえ払えない人が 20 代、30 代では半数近い状況です。このままでは将来、無年金・低年金の人が続出し、老後を安心して暮らすことなどできません。

いま年金をもらっている人も、「マクロ経済スライド」で、基礎年金だけの人を含め、毎年 1 パーセント前後の年金が引き下げられます。国やマスコミは、高齢者は少し我慢をしてもらわなければと言って容赦なく年金を減らし、これからも減らし続けようとしています。とんでもありません。日本の 1 千万人以上の高齢者は基礎年金しかなく、その平均額は月 5 万円、多くの女性が低額の年金です。国が、年金 2 万、3 万、4 万円の人も含め一律に減らしているのはどうてい許されることではありません。

さらに安倍内閣は、年金支給開始年齢を現在の 65 歳から 68 歳、70 歳以上にまで引き上げようとしています。大企業には法人税減税で 425 兆円もの内部留保のため込みを許す一方、来年 10 月には消費税 10%増税を予定通り実施すると宣言し、全世代に耐えがたい痛みを押しつけようとしていることは重大です。

年金者組合はいま、「年金引き下げは憲法違反」と全国で 5168 人の原告が 39 地裁で裁判をたたかっています。年金裁判は、際限のない年金引下げをやめさせ、マクロ経済スライドの廃止、最低保障年金制度の確立など、現在も将来も安心できる年金制度の実現をめざす運動です。最低保障年金制度の実現は、たんに低年金・無年金の人たちの困難を打開するだけでありません。若い人・現役世代の年金不信を取り除き、学業と職業選択の幅を広げ、自らの多様な能力を豊かに開花させる可能性を広げることに繋がります。

今日の年金フェスタ・一揆を新たな契機に、年金裁判運動を全国民的な運動に広げるために地方・地域で学習・宣伝・共同を大いに広げましょう。「年金署名」、25 条社会保障署名、そして「安倍 9 条改憲 NO!」3000 万署名を地域で訴え、街頭に立ちましょう。そして、この運動と結んで「仲間づくり月間」・組織拡大の目標達成に全力をあげ、来年夏の年金者組合結成 30 年を大きな前進の中で迎えましょう。

偽造、ねつ造、公文書改ざん、平然とウソをつきとおし、民意を無視する政権に未来はありません。それは、先の沖縄県知事選挙で、翁長前知事の遺志を受け継ぎ、辺野古新基地建設反対、普天間基地閉鎖・返還を掲げた「オール沖縄」玉城デニーさんの大勝利が示しています。市民と野党の共闘で安倍政権を即刻退場させましょう。